

アンケート集計結果より

横浜市史資料室では、昨年夏に展示会と講演会を企画・開催しました。ここでは、会場で実施しましたアンケートの集計結果と内容の報告、また皆さまからお寄せいただいた感想・ご意見などの一部を紹介いたします。
〔平成二五年度展示会〕

関東大震災90周年
 レンズがとらえた震災復興
 1923-1929

協力 横浜開港資料館・横浜都市発展記念館・横浜市中央図書館
 会期 平成二五年七月三日(土)～四日(月・祝)

- 〔展示構成〕
1. 廃墟の街
 2. 再起を誓う人びと
 3. 生まれ変わる横浜
 4. 復興の喜び
 5. 記録を残した人びと 担当 松本洋幸

〈アンケート集計表〉

年齢	10代	27名	9%
	20代	24名	8%
	30代	22名	7%
	40代	53名	18%
	50代	52名	17%
	60代	58名	20%
	70代	44名	15%
	80代以上	18名	6%
合計	298名	100%	

*小数点以下は四捨五入(以下の表、すべて同様)。

・総回答者数 三三四名
 (男性二二五名、女性八六名、無回答三名)
 ・男性七二%、女性二九%

・一〇代から八〇代までの幅広い世代の方々にご覧頂きました。中でも四〇代から六〇代の男性に多くご来場頂きました。

住所	横浜市内	254名	82%	
	神奈川県内(横浜市を除く)	26名	8%	
	東京都	18名	6%	
	その他	13名	4%	
	合計	311名	100%	
資料室を	市史	知っていた	160名	53%
		今回初めて知った	144名	47%
	合計	304名	100%	

展示を知ったきっかけ(複数回答)	新聞	20名	6%
	ちらし	54名	16%
	ポスター	49名	14%
	中央図書館に来館・利用中	150名	43%
	知人から	24名	7%
	当資料室ホームページ	10名	3%
	市史通信	13名	4%
	インターネット・メールニュース	8名	2%
その他	18名	5%	
合計	346名	100%	

〈アンケート集計結果より〉

・横浜市内では、近隣の西区・中区だけでなく、旭区、泉区、など市内広範囲から多くの方々にご来場いただきました。

・中央図書館に来館・利用中に展示会をご覧になった方が多く、市史資料室を初めて知ったという方が約半数ほどいらっしゃいました。

・およそ九二%の方から、「とても良かった・良かった」と展示の評価をいただきました。
〔展示の感想より〕

・写真が思ったより鮮明でした。大震災で残った建物が、今どのように生まれ変わったかを見ることができた。残って現在あるのが素晴らしい。歴史的建造物は美しい。震災で沢山の先人達が犠牲になり復興努力され

た人々のお陰で、今があるのだと歴史を感じました。(泉区五〇代)

・九〇年前の日本の持つ公共機関・民間の力が復興に向け結集されている姿が見られて感激！(磯子区七〇代)

・貴重な写真資料が多々あり、良かったです。人々の復興への力を見て勇気をもらい、今を大切にしようと思えました。(神奈川区二〇代)

・今昔写真を見て地権者を始め、市の復興に協力し、今につながる横浜市を創り上げた当時の人々の意気込みに感動した。(川崎市六〇代)

・現在の街の礎が震災後の復興と深いつながりがあった事、現在の建物の前に何が建っていたのか少しわかった。(西区五〇代)

・わずか五年で復興したこと(表面的には)に驚きました。土地区画整備、河川護岸整備に私利を越えた人々の協業があったから、ではとも思いました。再生のみならず、亡くなった人々への(遺族への)、思いやりがあったことがわかりました。(栄区五〇代)

・展示写真の画質がよく説明文が簡潔でわかりやすかった。(南区四〇代)

・横浜市震災記念館があったのを初めて知った。(中区七〇代)

・昔と今を対比できる良い写真が多くあった。対比の見せ方をもっと工夫すればもっとおもしろくなると思う。インターネットでも見たいです。(中区三〇代)

・非常に感銘を受けました。横浜の復興(大震災と戦争)には目をみはるものがあります。福島はじめ東北の皆様には一日も早い復興を心からお祈りします。(南区七十代)

〈特に興味を持った資料〉

・震災時から復興時にわたるパノラマ写真(南区三〇代)

・定点からの復興風景を経年で追った資料、震災後の市民の生活力、立ち上がった市民と市(行政)のようすがうかがえる写真(磯子区七〇代)

・地震が起こった五分後の写真(横浜市二〇代)

・「廃墟の街」の写真(港南区二〇代)

・震災直後の写真と現在の写真がそばにあり対比しやすくわかりやすい。(国分寺市二〇代)

・葬儀に関するもの、生命の失われる災害の痛々しさ、恐ろしさ、のこされた人々の心がよく伝わる。(川崎市七〇代)

・被災の地図(西区六〇代)

・多くの方が、野毛、山手、三春台の復興していく様子がわかるパノラマ写真をあげられました。

〈その他、展示会で寄せられた意見など〉

・パノラマの時代(復興)の変遷の写真は今ものも見たかったです。(青葉区四〇代)

・二〇〇周年に向けて、展望写真の変遷などから何がよみとけるのか、深化すると良いと思います。(鎌倉市六〇代)

・被害の最も大きな要因等の説明があるとわかりやすかった。(泉区四〇代)

・ポスターや実物、新聞等の展示も多少あればよかったです。(港北区五〇代)

・その他室内の照明、温度、などについてのご要望、漢字ルビ付与、解説の平易化、展示の導線などについてのご要望もありました。

・七〇代男性の参加者が最も多く、一〇代は少数でした。

年齢	10代	3名	3%
	20代	1名	1%
	30代	2名	2%
	40代	5名	5%
	50代	18名	19%
	60代	25名	26%
	70代	36名	38%
	80代以上	6名	6%
合計	96名	100%	

・総回答者数 一二名(参加者一五名)
 (男性:七七名、女性:二九名、無回答:二五名)
 ・男性八〇%、女性二〇%

〈アンケート集計表〉

講演会「関東大震災の災害教訓」 —東京・横浜の比較から— 共催 横浜開港資料館・横浜都市発展 記念館・歴史地震研究会 日時 平成二五年九月一日(日) 午後二時～四時三〇分 内容 【展示解説と講演】 展示解説 松本洋幸(横浜市史資料室 調査研究員) 講演 ・ジャーナリストが見た関東大震災 吉田律人(横浜開港資料館調査研究 員) ・横浜の関東大震災を歩く 東京との 比較から見ること 武村雅之(名古屋大学減災連携研究 センター教授・歴史地震研究会会長) ・震災に立ち向かった人びと 鈴木淳(東京大学大学院人文社会系 研究科教授) 【パネルディスカッション】

講演会への参加理由 (複数回答)	教訓を今後に生かしたい	65名	41%
	横浜の近・現代史への興味	62名	39%
	講師にひかれて	15名	10%
	その他	16名	10%
	合計	158名	100%

講演会を知ったきっかけ (複数回答)	ポスター・ちらし	64名	47%
	新聞	36名	27%
	市史通信	11名	8%
	知人から	8名	6%
	インターネット・メールニュース	7名	5%
	当資料室ホームページ	6名	4%
	その他	4名	3%
	合計	136名	100%

住所	横浜市内	91名	82%
	神奈川県内(横浜市を除く)	18名	16%
	東京都	1名	1%
	その他	1名	1%
	合計	111名	100%

〈アンケート集計結果より〉

- ・横浜市内では、神奈川区・中区・金沢区からの参加が多く、川崎市など隣接する市町村からだけでなく厚木市、茅ヶ崎市、県外は、千葉県からもご参加いただきました。
- ・講演会情報の入手方法は、中央図書館や連携展示を行っていた、開港資料館、都市発展記念館で設置されたポスター・チラシが最多でした。次いで新聞情報が多かったです。
- ・参加動機は、関東大震災の教訓を今後にかきしたいという思いで参加いただいた方が多かったです。
- ・およそ九二%の方から、「とても良かった。良かった」と講演会の評価をいただきました。
- 〈感想・ご意見より〉
- ・多くの方が聴講されているのに驚きました。多大な被害も出した、横浜の震災を解くことが将来へのそなえになると思います。(神奈川区五〇代)
- ・横浜の被災状況がよくわかった。(金沢区七〇代)
- ・武村教授の関東大震災の東京・横浜の地域的な相違の話が大変参考になった。(三浦市五〇代)
- ・①歴史から学ぶことの大切さ。②現代文明、科学文明に疑問を持つ、疑問をもって現代社会の安全性を見ることが大切さ。このお話が大変参考になりました。(川崎市六〇代)
- ・自助、共助が十分に働くためには、治安維持が先行すると思われるが、心許ないように感じている。武村先生の地震と震災について分けての考え方に深い関心を持ちま

した。自分の命を他人のせいにしてはいけないことだと思えます。(茅ヶ崎市八〇代)

- ・この教訓をこれからどう生かしていくのか。行政の考えを知りたいと思いました。(中区六〇代)
- ・その他、マイクの音が聞き取りにくかったという指摘、講演時間、資料についてのご要望がありました。
- 〈関東大震災90周年連携展示について〉
- ・この展示は、横浜開港資料館、横浜都市発展記念館と当横浜市史資料室三施設で同時開催し、展示の企画立案、関連事業、広報等で連携を行い、実施いたしました。
- ・市の各施設の連携展示は面白いと思えます(今まで行かなかった施設に行ったりする機会になるので)。市民への広報が少ないかな。もったいないです。(神奈川区四〇代)
- ・三館連携というのがよかったです。一館ごとは狭いけど三つ集まると見応えがある。(東京都四〇代)
- 〈まとめ〉
- ・今回の展示会及び講演会は、東日本大震災を経験していることもあり関心が高かったため、幅広い世代の方々に「見学、ご参加いただきました」。
- ・特に講演は、大変分かりやすく興味深い内容で、有意義だったという感想を多くいただきました。
- ・なお、この展示会の記録は、三施設連携展示の一つとして、『横浜都市発展記念館紀要』第10号、講演会の記録は、『横浜市史資料室紀要』第4号に掲載予定です。

(川原照美)

開架資料紹介
『復興の横浜』
『昭和四年 天行幸写真帖』

横浜市史資料室では、大正一二（一九二三）年の関東大震災で廃墟と化した横浜の街が、わずか五年余りで復興を遂げていく過程を示す数多くの資料を所蔵しています。ここでは、『復興の横浜』と『昭和四年 天行幸写真帖』を紹介いたします。

『復興の横浜』は、横浜の復興工事の様子を撮影した写真帳（八四丁）で、発行者は横浜市土木局、非売品とされています。刊行年は記されていませんが、復興が完成した昭和五（一九三〇）年頃と推測されます。

同書には、①区画整理、②街路、③橋梁、④河川・護岸、⑤公園、の事業ごとに、一〇三枚の写真が掲載されています。震災直後の惨況をとらえたも



神奈川付近の街路(上:工事後 下:工事前)

のから、復興の槌音が聞こえてきそうな工事中の写真、工事の前後を対照させた新旧の組み写真、静謐に仕上がった公園の写真など、多彩です。

横浜の震災復興事業は、大正一五年頃から本格化、昭和四年初頭には大半が完成し、同年四月二三日には昭和天皇が復興した街並みを行幸し、翌日には野毛山で復興祝賀式が行われました。横浜市史資料室には、この一連の祝賀行事を捉えた三冊の写真帳があります。うち二冊は同一系統のものと考えられるので、「その1」（二冊）と「その2」（一冊）と便宜的に表題を付して紹介いたします。

「その1」は、準備段階、天皇の視察・移動、天皇を迎える市民と町並、復興祝賀式、園遊会といった具合に、一五七枚の写真が時系列に貼り込まれていて、臨場感あふれるものばかりです。「その2」には七八枚の写真が配列されています。「その1」と重複する写真が多いのですが、天皇への献上品の写真が含まれていることが特徴です。これらの写真は、横浜の報道写真家の草分けとして知られている岡本三朗を中心に、前川謙三ら横浜の写真家が協力して撮影したようです。

『復興の横浜』および『昭和四年 天行幸写真帖』については、市史資料室内の目録コーナーにアルバムの複製を配架しており、画像の提供も可能です。是非ご活用ください。

(松本 洋幸)

《市史資料室たより》

【横浜市史資料室内ミニ展示】
「B29搭乗員関係資料」

日時：平成26年4月1日～7月中旬
午前9時30分～午後5時
場所：横浜市中央図書館 地下1階
横浜市史資料室内展示コーナー

◎入場無料

内容：昨年、山本博士様からご寄贈頂いた「B29搭乗員関係資料」16点を初公開いたします。なかでも、瑞穂埠頭上空からの航空写真は貴重な資料です。ご見学にお越し下さい。

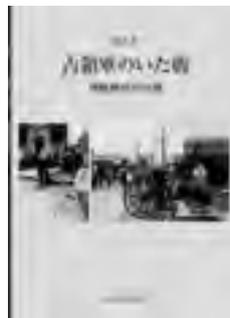
予告【平成26年度展示会】

横浜市広報課の作成したポスター（昭和40年代）展を予定しています。ご期待下さい。

【『横浜市史資料室紀要』第4号】

調査・研究の成果、及び平成25年9月に開催しました講演会の記録・成果報告、活動記録等をまとめた紀要を発行しました。
〈目次〉特集 関東大震災90周年 関東大震災の災害教訓—東京・横浜の比較検討から—
横浜の関東大震災を歩く—東京との比較から見えること—震災に立ち向かった人々／ジャーナリストが見た関東大震災—南桂著「避難民四名」の話—
関東大震災と小学校

被災から復旧まで／占領期における調達制度と米軍放出廃品処理／昭和初期、横浜における漁業組合概観—横浜中央卸売市場設置の前提として—
横浜市史資料室の活動記録／資料を寄贈していただいた方々



【報告書『占領軍のいた街—戦後横浜の出發』】

平成24年度に開催しました展示会「占領軍のいた街—戦後横浜の出發」と、展示解説と講演会「占領の中の横浜・神奈川」の内容を紹介するとともに、調査研究の成果をまとめた報告書を発行しました。
〈目次〉第1章 占領軍のいた街・横浜／解説（占領期横浜の写真）
第2章 占領の中の横浜・神奈川／1.占領軍にとっての横浜・神奈川／2.占領下の文化—音楽と映画—
第3章 占領下の横浜／解説／1.進駐・占領関係新聞記事／2.進駐・占領関係手記／3.米第八軍占領報告（抄訳）／4.横浜市内の米軍施設（占領期）

◎紀要第4号（500円税込）、報告書『占領軍のいた街—戦後横浜の出發』（600円税込）は市民情報センター（横浜市役所1階）のほか、横浜開港資料館、横浜都市発展記念館、横浜市歴史博物館、横浜市中央図書館ふれあいショップ「のげやま」で販売予定です。

【寄贈資料】

- 1 石川喜三郎様 山手まちづくり通信2部、山手まちづくりガイド2部、山手まちづくりガイドブック2部
- 2 横浜市教育委員会 小船幸次郎編曲『横浜市歌』吹奏楽用スコア（昭和41年）一式
- 3 葛目 裕子様 関東大震災関係写真9点
- 4 入澤 禮哉様 関東大震災後の摂政視察写真2点
- 5 杉浦 きぬ様 杉浦義太郎日記他49件
- 6 山根 哲様 前川一門の写真他46点
- 7 小松紀三男様 大震災写真画報他13件
- 8 加藤 紀子様 関東大震災（日高帝回願録）他12点

◇ 休室日のご案内 ◇

4/21(月)、5/7(水)、
6/16(月)～19(木)、7/22(火)